

# 工事の交通規制と工程管理について

(一社)静岡県土木施工管理技士会 静岡支部  
技術者番号 000137807  
平井工業株式会社 中山 和也

## 1.はじめに

東名高速道路の日本平久能山スマートインターチェンジの整備により、清水港、富士山静岡空港など市内外からのアクセス性の向上が見込まれることから、環境に配慮した工場や物流施設の集積による新産業拠点の整備を行う区画整理事業である。

本工事はその区画整理事業のメインの道路となる恩田原片山線の道路築造工事であった。施工箇所周辺は区画整理事業の工事隣接していることと、周辺の工場等への大型車両の迂回路となっていることから本工事を行う際に、工事車両及び工場等の車両の通行が課題となった。工事概要を下記に記す。

工事名 令和元年度 恩片工-5 都市計画道路恩田原片山線道路等築造工事

工事場所 静岡市 駿河区 恩田原 地内

工期 (着工) : 令和 1年 11月 28日

(完成) : 令和 2年 8月 31日

発注者 静岡市恩田原・片山土地区画整理組合

## 工事内容

工事延長 L=361.9m

道路幅員 16.0~17.0m

・土工 1式

・排水構造物工 1式

自由勾配側溝、暗渠 L=198m  
集水桝、街渠桝 19箇所

街渠工 L=124m

舗装止ブロック L=20m

・舗装工 1式

車道舗装 718㎡

歩道舗装 1868㎡

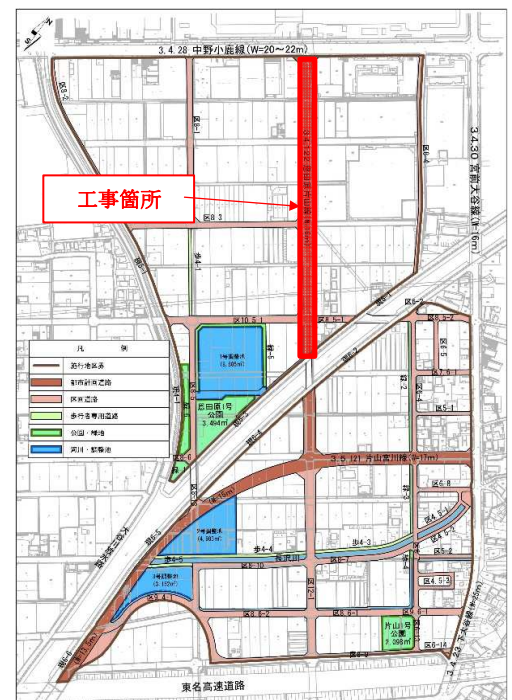
・植樹帯設置工 104m

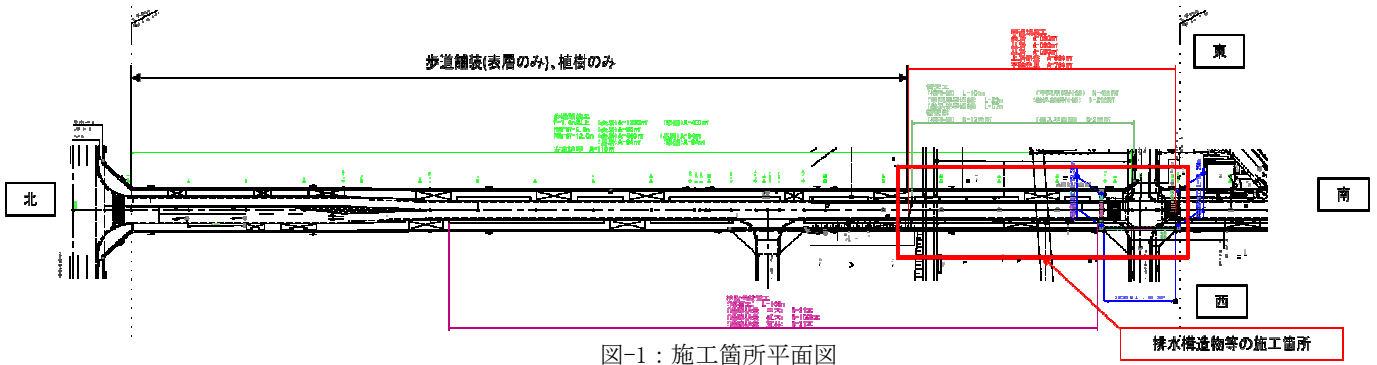
・道路照明工 1式

・仮設工 1式

・付帯工 1式

## 施工箇所位置図





## 2. 施工前の現場条件と工程

本工事を受注してすぐは別途工事が当施工区間の北側の施工を行っていた。別途工事も本工事も交通規制は片側交互通行規制と条件が同じであったため参考に現場状況を確認させていただいた。確認した際に当工事は交差点が絡んでおり状況に応じて全面通行止めでの作業が発生する事から安全を第一に考え、乗込みから全面通行止めでの作業を行いたく、発注者との協議を行った。

### 1) 交通規制について

現場条件として、周辺工事の工事車両や工場等の大型車両の通行が多い状況であった。片側交互通行での状況を見る限り、両側のL型側溝を施工した後は大型車両の通行は困難であると考えた。そのため、各工種での作業形態を検討し、どのタイミングで通行止め規制が必要となるか検討を行った。

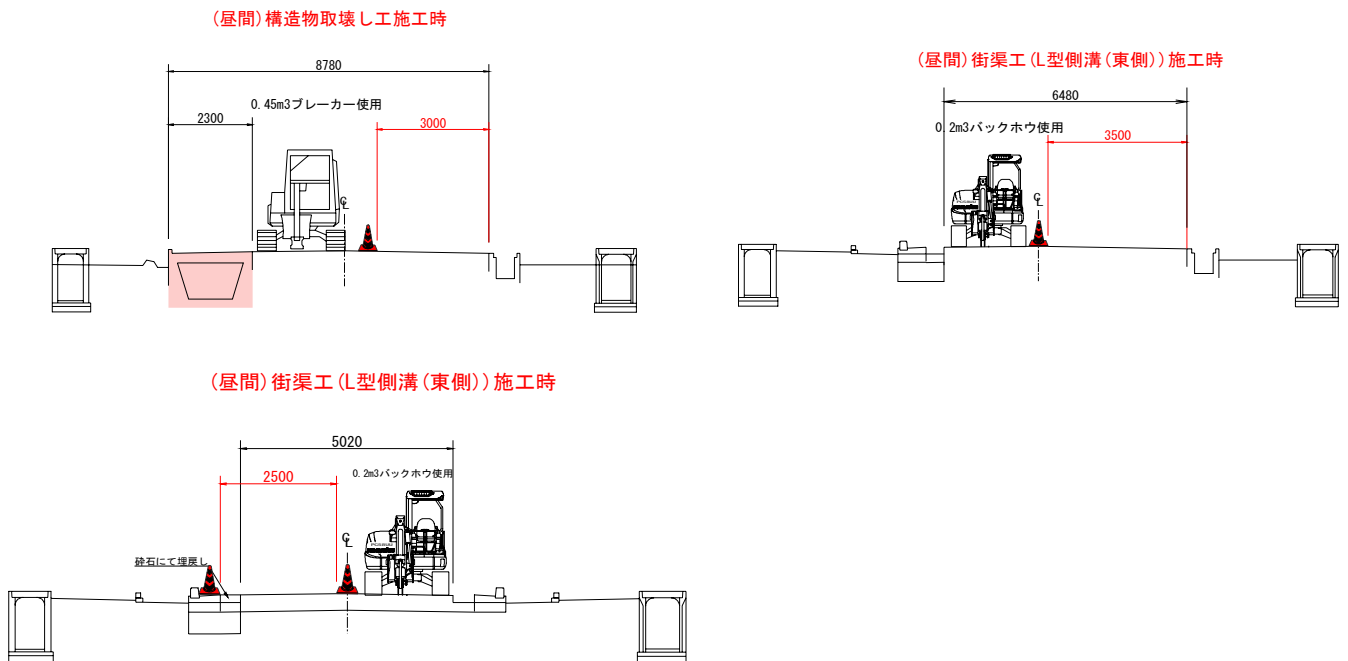


図-2: 各作業時の最大幅員検討図

### 2) 工程と通行止め規制

通行止め規制の時期を検討するため、工程表の再検討を行った。当初の予定では、両側の自由勾配側溝→L型側溝(西側)→既設構造物取壊し→L型側溝(東側)であったが、L型側溝(西側)の施工を先に行ってしまうと、構造物取壊しの際に幅員が取れなくなり片側交互通行規制での施工ができなくなってしまうため、既設構造物取壊し→L型側溝(東側)→L型側溝(西側)とすることで、幅員2.5mを確保が可能となった。

しかし、交差点部については南北方向に横断暗渠があることや、舗装時の施工を分割して行うことも考慮したが片側交互通行規制での施工が難しく、通行止めでの作業が必要となった。そのため大型車両の迂回路について発注者と入念な打ち合わせをしていたところ、地元住民からの要望で交差点部の東西方向に歩行者通路をつけることとなったため、再度通行止めについて検討が必要となった。

### 3) 通行止め規制の範囲

別途工事は最後の舗装工を行う際に通行止めを実施していたが、範囲としては北側の交差点から本工事施工の交差点までの区間であり北側交差点の東西の通行は可能となっていたため大型車両等の迂回路は確保できていた。そのため当工事でもできる限り交差点部の着手を遅らせ短期間の通行止めで作業を完了させることで、地元住民の方や工場等への負担を軽減させることを目標とした。

### 3. 交通規制の実施

本工事の着手に伴い片側交互通行規制での作業を開始したが、やはり大型車両の通行時は安全を確保するために作業を止めていたが台数が多く、作業の進捗が伸びない状況であった。そのため実際の作業状況を発注者に確認していただき、安全性の確保のため通行止め規制で行うことを強く要望した。しかし通行止めにしてしまうと迂回路がなくなるとの事であったため、区画整理事業内で迂回路として使用できる場所を探した。その結果、すぐにでは無いものの使用できる道があったため、その施工業者と打合せを行い、その工事完了後に迂回路として使用させてもらえることになった。迂回路が確保できることを発注者に説明し、通行止めでの施工の了承が取れたことで、地元住民の方への説明、通行止め前には通行車両の方に説明を実施し、苦情なく施工を完了することができた。交差点部の施工についても近隣工事の方と調整し、歩行者通路の盛替えや短期間だけ迂回路を作成し通行させることで安全を確保しながら施工を終えることができた。



写真1：着手前(工事起点側)



写真2：着手前(工事終点側)



写真3：完成(工事起点側)



写真4：完成(工事終点側)

### 4. 終わりに

今回の恩田原片山線の工事は私にとって初めて現場代理人と監理技術者を兼務して行った工事であった。今までは上司がおり、すべてを一人でやるのが無かったため調整についてどのように行えば良いのか試行錯誤しながらの施工となった。また施工箇所が周辺工事と隣接しているという現場条件も含め、初めての経験が多くあった。

今までの経験を基に打合せや調整を行い、時には現場で他工事の作業員の方と直接打合せを行うことも多く、お互いの施工方法や工程を入念にすり合わせながら工事を完了できた。

全体を通して打合せ等多くの方に協力して頂いたことで、工事が完成できたと思う。今回の工事で得たものを今後にも生かしながら自己研鑽に励む所存である。